
迷子のピリー

紺こおろぎ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

迷子のベリー

【Nコード】

N8504Q

【作者名】

紺こおろぎ

【あらすじ】

2チャンネルのスレで即興で書いたベリーの話。

その時、小話のお題として出されていたのが、「迷子のベリー」「みかん」「イチゴ模様のパンツ」でした。

今日もビリーはやってきた。

ビリーは、私に小銭を渡して、店先のみかんを一個とるとその場で器用に剥いて食べる。

それがビリーの日課である。

ビリーは男の子だが、イチゴ模様のパンツを履いている。

それはお姉ちゃんのお下がりだ。

なぜか気に入ったそのパンツは、雨の日も風の日も、ビリーの一張羅である。

お母さんが洗濯の時に取り上げる時以外は。

最初はお母さんに抱かれてやってきた。

この前までお姉ちゃんと手をつないで店先に來ていた。

今は一人でやってくる。

そして、山のふもとの集落の一番端にあるこの野菜売り場で、みかんを食べて満足してまた集落の家に帰っていく。

ある日、ビリーはみかんをいつものように食べ終わり、山の方をいつまでも見ていた。

家にお帰り。と、声をかけても知らぬふり。

そして、ゆっくり家に帰って行った。

ブカブカだったビリーのパンツはいつか小さくなっていた。

次の日も、ビリーはやってきた。

上の空でミカンを買ひ、道端で山を見上げる。

ずっと立ち尽くしていたビリーは、山を指差し何かを訴えた。

今度は私が知らぬふりをする。

ビリーが帰った後に、

食べかけのミカンがポツリと狭い道の真ん中に落ちていた。

今日はビリーはお休み。

雨が降っているから。

数か月前は、雨の日でも一日も欠かさず、

お母さんの腕にぶら下がって八百屋に来るのが楽しみだったのに。

数日後ビリーはやってきた。

いつものように小銭を渡してミカンを一つ取る。

道端に座り込み、山を見ながらゆっくり食べる。

今日のビリーの顔はまるで輝いているかのようだ。

いつしかビリーの姿は消えていた。

店の外に出て山の方を見ると、道の向こうに小さくなったビリーのパンツが落ちていた。

「今日は、みかんをください。」

数日後にお姉ちゃんがやってきた。

やあ、ビリーはもう何日も来ないよ。

「どこに行ったのかな？」

山に。

「なぜ」

大人になったから。

「迷子かな？」

いいや、迷ってないよ。今は。

たぶん。

今日は閉店後にみかんを一つ店先に残しておこう。

お猿のビリーが取りに戻ってくるように。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8504q/>

迷子のビリー

2011年10月6日05時53分発行